

# こんにちは

2018 Vol.24

## CONTENTS

学長挨拶	2
今年着任された先生方の紹介	3
別科助産専攻 1期生修了 専攻長挨拶	4
・1期生からのメッセージ	4
ひむかヘルスリサーチセミナー	5
学食だより	6
図書館だより	6
卒業生からのメッセージ	7
サークル紹介 (軽音楽部サークル)	8
大学祭の報告とお礼	8



第21回公孫樹祭 宮崎県マスコットキャラクターと共に



テニスサークルの“たい焼き”の販売



今年度の大学祭の看板 (2018版)



# 学長挨拶

皆さまこんにちは、本年4月に着任しました学長の平野かよ子です。これからは地域の関係者の方々のお力添えを頂き、教職員の皆さまとより良い大学づくりをしていきたいと思っております。

これまで私は主に保健師の実践と教育、研究を行ってきました。これからは本学がこれまでに培われた看護の理念を尊重し、自立・自律した看護専門職による看護実践を整理・分析、統合し、改めて看護学を体系化させることに寄与したいと思っています。

私事ではありますが、およそ50年前に私が受けた看護教育の中で唯一覚えていることは、「看護は科学でありアートである。」「看護とは、人々が安楽と希望をもつようになることである。」です。当時は入院患者への看護を中心として学びましたが、昨今人生100年の時代を迎え、看護には医療機関において急性期にある患者さんへ科学的な根拠に基づいて提供されるケアとともに、地域において住民自らが望む場所で保健と医療と福祉が統合され「地域づくり」として提供されるケアも求められています。

先日、大阪にあります淀川キリスト教病院の名誉院長の柏木哲夫先生が書かれたケアについて読みました。先生はケアは4つに整理できるとし、その一つは病院などの施設内で安全で的確に専門職が「提供するケア」と、二つ目は回復期にある患者さんを「支えるケア」、三つ目は地域で暮らす方々に「寄り添うケア」、そして四つ目は人の力では解決できない事ごらを抱える方と「共に背負うケア」です。なるほどと納得しました。“看護とは何であるか”を、初学者や一般の方々にはとても分かりやすい整理だと思いました。

それぞれのケアにおいて看護職は科学的な根拠をもって行うものですが、科学的な根拠を持ちつつも科学的とは言い難い“アートとしての看護”を明確にし、人々が癒され希望を持つことができる看護を体系化し、それを宮崎県立看護大学から皆様と共に発信していきたいと願っています。



学長 平野かよ子



保健師 ひいくん 助産師 むうちゃん 看護師 かあくん

宮崎県立看護大学 応援キャラクター



# 新任教員紹介

成人看護学領域 助手 <sup>うえ とみ ふみ こ</sup> 上 富 史 子

本年度4月より成人看護学の助手として赴任しました。これまで消化器外科、泌尿器科、婦人科、精神科などの病棟で看護を経験してきて、病棟の教育担当や実習指導者として学生指導を行ってきました。学生との関わりを通して、教えることの楽しさを感じながらも教育の難しさも実感し、臨床から看護基礎教育への興味と関心につながりました。

経験豊富な諸先輩方からの助言をもとに、これから学生と一緒に看護や教育について学び自己研鑽していきたいと思えます。

まだまだ勉強不足で日々学ぶことが多いのですが、少しでもお役に立てるように精進してまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



「成人看護学の演習風景」

精神看護学領域 助教 <sup>くず しま しん こ</sup> 葛 島 慎 吾

今年度の4月から精神看護学の教員をしております葛島慎吾と申します。

私は、8期生として本学で学び、卒業後は東京都の精神科病院で働いていました。ここ数年は、精神看護専門看護師として活動をしながら、看護系大学で教員をしていましたが、10年ぶりに宮崎に戻ってきました。私は、宮崎県の自然や人が大好きで、この場所で看護学教育に携われることを幸せに思います。

本学で学んでいた頃に精神看護学に興味を持ち、今ではどっぷり精神看護学の虜になっています。これまで出会ってきた患者さんや周囲の人々から受け取ってきた宝物を本学での教育、研究、地域貢献等に活かしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



「第21回公孫樹祭での様子（本人は右）」

別科助産専攻 助手 <sup>ひめ の あや</sup> 姫 野 綾

今年度4月より別科助産専攻に着任致しました、姫野です。私は、地域周産期センター、助産院等で働いた後、本学へ参りました。

教育者としての経験は浅いのですが、臨床で培った経験を活かし、学生がお産の素晴らしさや楽しさ、命の尊さ、そして仲間と共に協力し合うことの大切さを感じてもらえるよう尽力して参ります。

私は、宮崎県の隣、大分県出身者ですが、宮崎県の地域特性についてはわからないことばかりです。宮崎県の温かい風土、そして温かい人柄に支えていただきながら自己研鑽し、1日も早く地域貢献出来るよう精進して参ります。

どうぞよろしくお願い致します。



「分娩時の産痛緩和演習風景」



## 【宮崎県立看護大学別科助産専攻：1期生修了】

### 「別科助産専攻1期生の修了に対する思い」

別科助産専攻長 濱 寄 真由美

助産師の役割は、産科医療技術が高度化・複雑化する中で、正常分娩の介助、妊娠、産褥、新生児の各時期におけるきめ細やかなケア、授乳や育児の相談・支援等です。宮崎県民が安心して子どもを産み育てる観点からも極めて重要な役割です。

別科助産専攻の助産師教育は、質の高い実践的助産師の育成であり、地域に密着した専門職業人を目指しています。さらに、別科助産専攻の役割として、学び直しのニーズに対応したキャリア教育を充実させています。

1期生は、学士課程終了後の卒業生、看護師養成校卒業生、看護師資格を有する社会人の計15名が修了致しました。その内13名が宮崎県内に就職致しました。1期生の助産学実習が無事に修了できたのは、宮崎県内の周産期医療ネットワークの拠点病院4か所と、4か所の診療所・病院、7か所の助産院、5か所の市役所の指導者の皆様の温かい指導のおかげだと感謝致しております。

平成30年度以降も宮崎県の母子保健・医療の課題を見据えながら、実習施設と大学の連携をとった効果的な実習を考えています。

是非、「まなび野の地」で助産師を目指す熱意のある方のご入学をお待ちしています。



第1回 別科助産専攻修了式にて（最前列左から2人目）

## 別科助産専攻：1期生からのメッセージ

### 「学び続ける」

勤務先：宮崎市郡医師会病院 周産期センター（産婦人科）

産婦人科病棟に看護師として勤務していた私は、助産師を目指したい思いと、救急で搬送されてくる母親にもっとできることがあるのではないかと考えていました。その頃、別科助産専攻のことを知り、15年ぶりに助産師学生になりました。年齢や家庭のことを考えたこともありましたが、職場・家族の理解と支援が得られ、これは、「神様が勉強するなら今だよ」と言ってくれているチャンスだと捉え進学しました。

産婦人科病棟経験があるとはいえ、分娩介助は未知の世界で、悩んだり不安になったりすることもたくさんありました。しかし、実習施設の指導者さんや医師、大学の先生の熱心で丁寧な指導で次につなげることができました。一旦、勤務先を離れたことで、自分を見つめ直す機会もできました。諸先輩方が精力的に活躍されている中、もっと誠実に自分も学び続ける必要があると思いました。

大好きな1期生の仲間との助産師学生の日々は宝物です。来年の春、2期生の皆さんの助産師誕生を楽しみにしています。



別科助産専攻1期生  
福田 英代さん

### 「支えてくれる人たちの大切さ」

勤務先：県立日南病院

私は、助産師になりたい、という思いから新たに併設された別科助産専攻の1期生として入学しました。専門性のある講義や分娩介助演習、長期の分娩介助実習に辛いと感じることもありましたが、生命の誕生の場面に立ち会い、母親や新生児、家族のもつ力に感動し、一つ一つ乗り越えてくることができました。助産師学生を快く受け入れてくださった妊産褥婦さんやご家族、施設の医師や助産師さん、スタッフの皆様、いつも私たち学生のことを気にかけて相談にのってくださった大学の先生方のおかげでここまでくることが出来ました。そして、同じ思いを胸に嬉しいことも苦しいことも共に過ごした15名の仲間がいたからこそ、どんなことも乗り越えてくることのできたのだと思います。

在校生の皆さんも、これからへの喜びや不安と様々な思いを抱えていると思いますが、仲間や支えてくださる方たちがいることを心に、自分の目標に向かって頑張ってください。



別科助産専攻1期生  
尾形 真梨さん



# ひむかヘルスリサーチセミナー

## ～ひむかヘルスクラウド～

代表 教授 江藤 敏治

これからの高齢社会を見据え、地域医療・保健・健康増進活動をどのように展開していくか極めて重要です。根拠に基づく保健医療サービスの展開や健康政策の決定のためには、地域の特性を把握するための疫学統計は必要不可欠な知識となっています。そして、そのデータに基づいた地域住民の健康増進と地域の活性化のための政策と、その政策を確実に実効性を持って地域住民に受け入れられることこそが、限られた資源を有効に活用できる方法です。

私たちは、宮崎県の地域ならびに企業保健師の日常健康増進活動における研究着眼力の養成と健康増進政策確立力の養成、さらに市民の健康行動を促すことのできる保健指導力の向上を目指して、平成27年度から本セミナーを開始しました。平成29年度は保健指導セミナー2回、統計セミナー4回、地域診断政策立案セミナー2回、出張セミナー（高千穂・串間）2回、特別セミナー1回、市民公開講座1回、日本地域看護学会ワークショップ2題を開催し、381名の方にご参加頂きました。本セミナーを通して、自治体との共同研究3件（宮崎県、日南市、串間市）自治体との政策立案4件（日之影・高千穂・五ヶ瀬保健所、串間市）企業連携1件（協会けんぽ）KDB解析指導セミナー2件（宮崎県健康づくり協会）の連携活動を行っています。

昨年度は新たに「ひむかヘルスクラウド」を立ち上げました。遠隔地でのセミナー視聴やセミナー後のアンケート結果の即時フィードバックに活用するなど、「セミナーに参加しやすい環境」作りを目指しています。YouTube を用いたセミナーライブ配信や、Googleの有料クラウドサービスであるG Suiteを利用して、宮崎県内の保健医療行政の担当者向けにウェブ上の情報スペース「ひむかヘルスクラウド」を整備し、①e-learningシステム ②ビデオ会議スペース ③インターネット調査システム ④ファイルの共有システムの構築を行っています。

活動スタッフは宮崎県立看護大学からは江藤のほか、中尾裕之教授・松本憲子准教授、宮崎大学から藤井良直教授、名古屋大学から青石恵子准教授、宮崎県福祉保健部から日高良雄次長です。社会的にもとても重要でかつ有意義で楽しい活動です。宮崎県の健康長寿日本一を目指して、是非一緒に活動していきましょう。



平成30年3月14日開催の市民公開講座での1枚（最前列中央）



## 学食だより

株式会社ホーユー 調理責任者 平部 英理

皆様こんにちは、今年5月より当校の調理責任者として学生会館食堂に勤務することになりました。まだ、不慣れでご来店の皆様にはご迷惑をおかけしております。

私どもスタッフ一同全力で毎日頑張っていますのでどうぞ寛大な心で見守って頂けると有難いです。

常に皆様に喜んで頂けるように、メニューを工夫しております。

毎日の日替わりランチ、日替わり丼ぶりは券売機の所にサンプルで置いて有りますので見に来て下さい！

今後の新作メニューもお楽しみにして下さいね。調理スタッフ一同、毎日笑顔で皆様のご来店をお待ちしております。



## 図書館だより

附属図書館職員 小川 貴子

こんにちは、附属図書館です。これから夏休みに入ると、毎年近隣の学生の利用が多くなります。混雑時は、どうしても先着順となってしまいますため、図書館に来館したのに、座席がなく退館される方を見かけます。四人用テーブル席を一人で使用している方がいらっしやると、他の三席が空席でも相席出来ない方が多いようです。

そのため、座席の工夫を行いました。特に一人で利用される方のために、昨年から個人用閲覧席を四席設けました。また、四人用テーブル席をくっつけ八人用テーブル席とし、中央に移動可能な仕切り板を設けました。どちらも人気の席となっております。仕切り板がある席は、用途に合わせて一人または友達と隣同士で利用されているようです。

他にも、ペットボトルなどの蓋つきの飲み物が持ち込み可能になりました。水分補給をこまめに行い、熱中症等に気を付けて図書館をご利用ください。



個人用閲覧席



仕切り板の席



# 卒業生からのメッセージ

## 『救急の現場で患者さん・ご家族の不安に寄り添う看護を目指して』

宮崎大学医学部附属病院 坂本涼輔さん(2016年卒)

私は大学卒業後、宮崎大学医学部附属病院に入職して、救命救急センターに配属となり、勤務しています。フライトナースを目指し、「For MIYAZAKI」をモットーに、救急車やドクターヘリで搬送されてきた患者さん・ご家族への看護を行っています。



私が入職してから約1年が経ちました。救命救急センターには、交通外傷をはじめ重症度の高い様々な疾患の患者さんが入院しています。入職した頃はこんな現場でやっていけるのかと不安を感じました。でも、先輩方や先生が親身になってサポートしてくれることで、安心して患者さんと関わることができています。私の職場では、患者さんの回復していく姿を間近に見ることができ、入院時は重症だった患者さんが元気に退院・転院していくことが看護の喜びだと感じます。患者さんに寄り添うことの大切さを忘れず、ご家族への配慮も忘れないよう、気持ちのよい対応を心がけていきたいと思います。そして、将来はフライトナースとして活躍できるよう頑張りたいと思います。

## 『住民に寄り添った保健活動を目指して』

宮崎市健康管理部 医療介護連携課 松尾祐輔さん(2007年卒)

私は大学卒業後、看護師としての病院勤務を経て、現在は保健師として働いています。大学生活を振り返ると、講義では科学的な看護を展開するために必要な考え方を学び、実習では“対象者を多面的な視点で捉えること”や“看護とは”をひたすら考えながら、一生懸命に患者さんと関わっていたことを思い出します。実習では壁にぶつかることも多くありましたが、先生方の根気強いご指導や友人の支えにより、看護学生として一歩ずつ成長できたのではないかと思います。



現在もつまずいてばかりの日々ですが、“看護職としての自分に関わる意味は何か”を常に考えながら働いています。また、実際に地域で生活している対象者と関わると、健康課題の他にもさまざまな生活上の課題が複合的に絡んでいることや、対象者だけでなく家族も何らかの課題を抱えていることがあります。そのため、大学での学びを土台とし、上司や先輩との意見交換、他職種との協働を通して、対象世帯全体の支援に取り組んでいます。これからも、経験と専門知識を結びつけながら、生活者である対象者に寄り添った支援ができるように努力していきたいです。



# サークル紹介 軽音楽部



3年 野口まどかさん

こんにちは、“MPNU軽音楽部”です！  
私たちは学祭でのステージ演奏をはじめ、外部でのライブイベントに参加したり、その練習をしたりしています。音楽好きが集まり、音楽を演奏することを通して交流を深め、それぞれの技術に磨きをかけています。部員のほとんどが楽器初心者からスタートしますが、縦のつながりも強くまた、他大学から良い刺激をもらう機会も多いため、卒業する頃にはバンドのオリジナル曲を作ることができるほど充実しています。

またグループホームでアコースティック演奏させていただくなど、音楽をきっかけに様々な人たちと関わることで、お互いに刺激を与えあったり癒されたりすることができるのも、看護大軽音楽部ならではの良さだと思っています。OBやOGがイベントごとに遠方から駆け付けるほどのアットホームであたたかい雰囲気のサークルです。これからも支えてくれる部員や顧問の先生に感謝しつつ、楽しいサークル活動を行っていきたいと思います。



大学祭での様子



ライブイベントの参加



## 大学祭の報告とお礼



いちよう  
公孫樹祭実行委員長 落合 祐希さん

今年度、公孫樹祭を5月19日・20日に開催させていただきました。今年のテーマは、「Colorful!~いろんな人と繋がろう~」にしました。このテーマには、すべての方々が自分の色を発揮し、たくさんの笑顔が溢れる公孫樹祭にしようという思いが込められていました。このテーマのもと、今年度は、地域の皆様にも参加していただけるような楽しい企画や看護大ならではの健康を考えたコーナーを設け、準備してまいりました。

当日は天気にも恵まれ、様々な企画も滞りなく無事に終えることができました。

そして、多くの皆様にご来場いただき、各役員一同、大変嬉しく思っております。

最後になりましたが、今回の大学祭の趣旨をご理解いただき、ご協力してくださった後援会の皆様をはじめ、スポンサーの皆様、大学関係者の皆様、また大学祭の出演を快く引き受けてくださった皆様に厚く御礼申し上げます。



テニスサークルの店出



和太鼓サークルの演奏



2日目最後の抽選会の担当者と共に